

2024年（令和六年） 12月20日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

当週(12月12～18日)の国際石油市場は、欧米の対ロ・対イラン経済制裁観測、米国の利下げ等を上昇要因、IEAの2025年の石油需給緩和観測、中国の景気後退観測等を低下要因に、不安定な動きを示した。

NYのWTI原油先物市場は、12日、70.02ドルで始まり、13日は71.29ドルまで上昇、17日は70.08ドルまで下がったが、18日は70.58ドルと70ドル台初めの水準で小刻みに変動した。

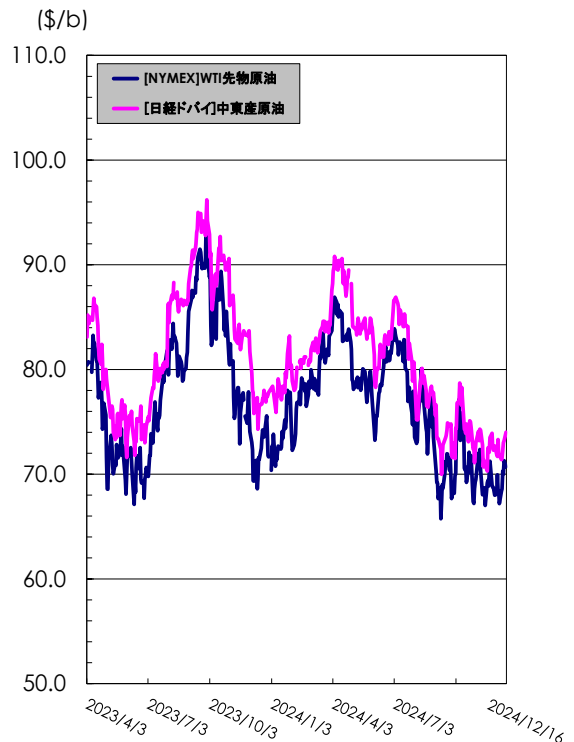
また、中東産バイ原油/東京市場(2月渡し)も、前週(12月5日～11日)は71.40～72.30ドルの範囲で推移したが、当週は、12月12日73.00ドル、13日73.20ドル、16日74.00ドル、17日73.30ドル、18日73.20ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(12月5日～11日)149.85～151.86円の範囲で推移したが、当週は、12月12日152.40円、13日153.02円、16日153.92円、17日154.27円、18日153.74円となった。

財務省が12月18日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格75,515円で前旬比406円高、ドル建て77.83ドルで前旬比0.15ドル安、為替レートは1ドル/154.27円。また、11月月間の原油輸入平均CIF価格75,154円で前月比1,680円高、ドル建て78.15ドルで前月比1.94ドル安、為替レートは1ドル/152.89円。

そのような中で、12月16日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油は同横ばい、灯油は同3円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は175.8円となった。12月19日～25日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は12.7円(補助金がない場合の次週予想価格192.6円で、168円から185円の今日からの新しい補助率30%支給部分5.1円、185円を超える補助率100%支給部分は7.6円)と、実額ベースでは、前週比2.2円の減額となった。

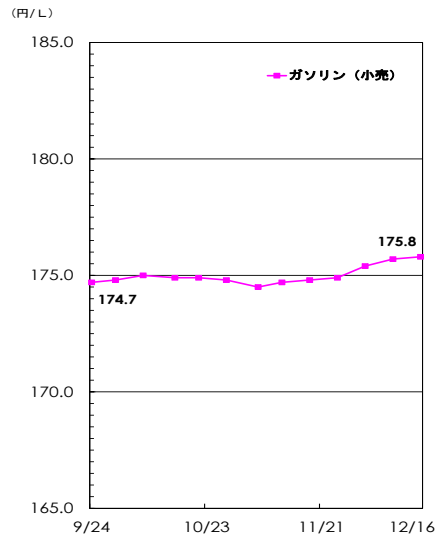
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/8～12/14	2,645 ▼ -217	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.4 ▼ -6.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/14	10,582 ▲ 1,006	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	12/16	74.00 ▲ 2.60	▼ -2.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/16	70.71 ▲ 2.34	▼ -1.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	77.83 ▼ -0.15	▼ -16.07
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,515 ▲ 406	▼ -13,276
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	154.27 ▼ -1.14	▼ -3.94
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/16	154.92 ▼ -4.07	▼ -11.72



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/14	1,844 ▲ 11	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/10 ~ 12/16	80.0 ➡ 0.0	▼ -1.0
価格	(TOCOM/中部)	12/16	83.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	175.8 ▲ 0.1	▲ 0.7

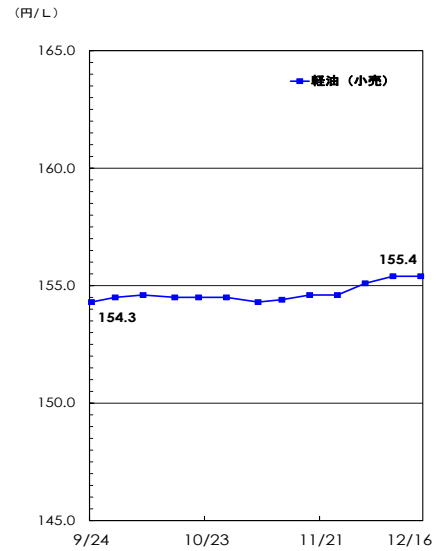
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

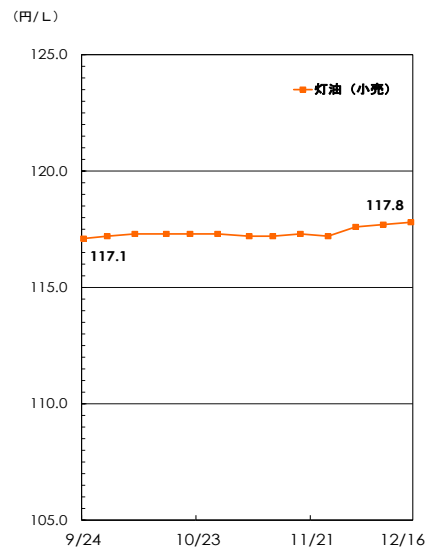
		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/14	1,461 ▲ 6	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/10 ~ 12/16	83.1 ▼ -0.1	▲ 0.8
価格	(TOCOM/中部)	12/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	155.4 ➡ 0.0	▲ 0.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/14	2,444 ▼ -96	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/10 ~ 12/16	81.5 ➡ 0.0	▼ -0.4
価格	(TOCOM/中部)	12/16	85.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	117.8 ▲ 0.1	▲ 1.2



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（12/5～12/11）のNYMEX・WTI先物市場は67.20～70.29ドルの範囲で推移した。

当週、12月12日は、国際エネルギー機関(IEA)がこの日石油市場月報で2025年の原油需給の緩和観測の拡大を発表したことから、4営業日ぶりに反落した。ただ、トランプ次期大統領は対イラン制裁強化を示唆したことなどから、下値は固かった。1月物終値は前日比0.27ドル安の70.02ドル。

週末13日は、欧州連合(EU)の大使級会合で対口経済制裁の強化に基本合意、また、米国も対口・対イランの制裁強化を検討中との報道があり、両国の供給の減少懸念から、反発した。1月物終値は同1.27ドル高の71.29ドル。

週明け16日は、中国当局から、11月の小売物価指数が発表、前月比3.0%増と前年同期の4.8%から減速、中国経済の先行き懸念が拡大、反落した。また、需給緩和見通しの中、前日上昇の反動、利食い売りもあった模様。1月物終値は同0.58ドル安の70.71ドル。

17日は、昨日以来の中国景気鈍化懸念の加え、ドイツの12月の景況感指数は鈍化、市場予想よりも下回り、欧州の経済先行き懸念も拡大、続落した。また、米国連邦準備制度

理事会(FRB)の金利政策決定を前に、持ち高調整の売りもあった模様。1月物終値は同0.63ドル安の70.08ドル。

18日は、FRBの公開市場委員会(FOMC)が開催、0.25%の利下げが決まり、景気拡大期待から、3日ぶりに反発した。ただ、同時に今後の利下げに慎重姿勢が示され、来年の利下げペース鈍化観測が強まったため、上値は固かった。また、この日発表の米国石油在庫週報は、前週比、原油と中間留分が取り崩しで、米国内需給の引き締まりが意識された。1月物終値は同0.50ドル高の70.58ドル。

2 海外/米国石油市場

12月18日発表の12月13日時点の米国石油在庫は、原油在庫は前週比90万バレル減と市場予想(160万バレル減)を下回った。一方で、ガソリン在庫は230万バレル増だったものの、中間留分在庫は320万バレル減と取り崩しとなった。

EIAによると12月16日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.8セント高の1ガロン3.016ドル(123.8円/ℓ)と9週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.6セント高の1ガロン3.494ドル(142.8円/ℓ)と2週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、12月13日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの482基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2024年12月8日～12月14日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は264.5万klと、前週に比べ21.7万kl減少。前年に対しては36.0万klの減少。トッパー稼働率は76.4%と前週に対して6.3ポイントの減少、前年に対しては7.2ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

12月14日時点の在庫は、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは184.4万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては13.7万kl多い。

灯油は244.4万kl、前週差9.6万kl減。前年に対しては16.6万kl少ない。

軽油は146.1万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては11.7万kl多い。

A重油は74.2万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては2.9万kl多い。

C重油は162.9万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては18.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (12/14)	前週 (12/7)	前週比	
ガソリン	1,844	1,833	▲ 11	(1%)
ジェット燃料	835	828	▲ 7	(1%)
灯油	2,444	2,540	▼ -96	(-4%)
軽油	1,461	1,455	▲ 6	(0%)
A重油	742	752	▼ -10	(-1%)
C重油	1,629	1,623	▲ 6	(0%)
合計	8,955	9,031	▼ -76	(-0.8%)

5 国内/元売会社製品卸価格

12月10日～16日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安が進み、元売会社の卸建値は値上がりしたものが見られる。12月19日からの制度改正に伴い、補助金は大きく減額されるため、12/19～12/25の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

12月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の175.8円、軽油は同横ばいの155.4円、灯油は18%ベースで同3円高の2,121円(1%ベースでは0.1円高の117.8円)。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油は3週ぶりに値上がり止まり、灯油は3週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが25道府県、横ばいは5県、値下がりは17道府県だった。全国最安値は岩手県の169.2円、その次は愛知県の170.1円であった。他方、最高値は長野県の185.9円。最も値上がりしたのは岡山県(同2.3円高)、最も値下がりは愛知県の(同1.2円安)だった。

次回調査時(12/23)のガソリンの小売価格は、補助金の縮小に伴い、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/16)	前週 (12/9)	前週比	直近高値
レギュラー	175.8	175.7	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.8	117.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	155.4	155.4	▶ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

小売価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第37号) の公表は、12/27 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。